

# 2020.8.22-23希望創発研究会（8月例会・オンライン）を実施

ホーム > 希望創発研究会 > 例会実施報告

希望創発研究会

教育研究システム

研究テーマ

研究会スケジュール

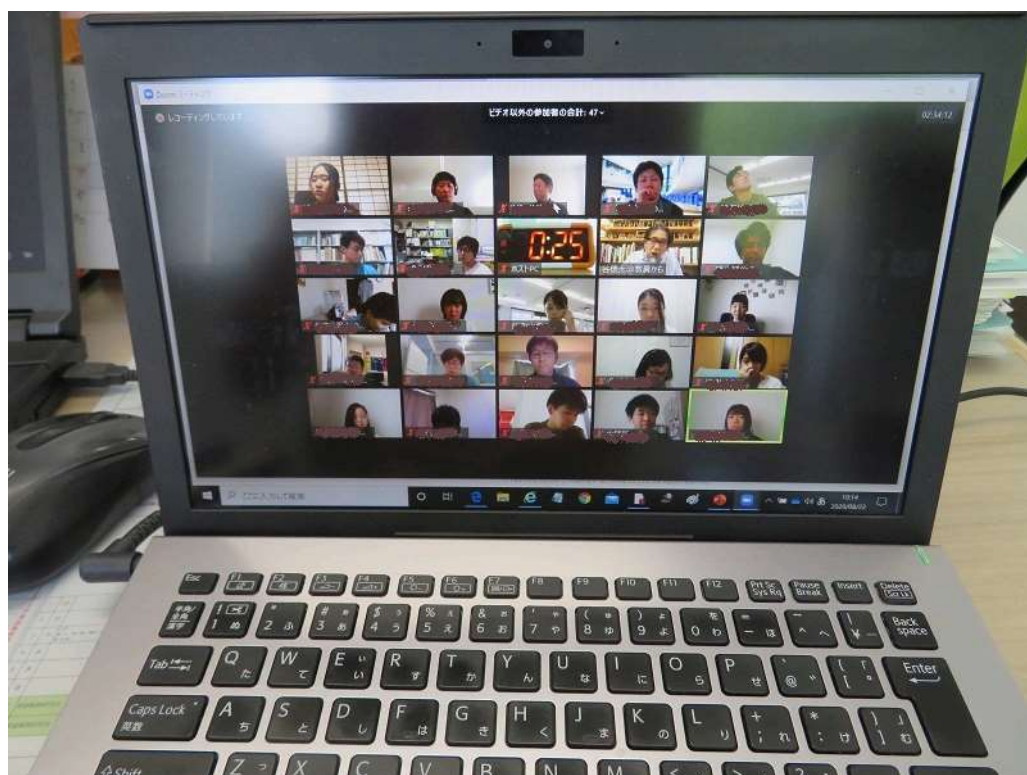
例会実施報告

参画メンバー

参画メンバー募集について

## 2020.8.22-23希望創発研究会（8月例会・オンライン）を実施

公開日 2020年9月23日



8月22日（土）-23（日）、2020年度の1回目となる希望創発研究会（8月例会・オンライン）を実施しました。4月開始の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催ができず、開始時期・開催方法を探ってまいりました。オンライン開催にチャレンジすることになった今回は、東京など県外企業人・高知県内企業人合わせて20名、学生21名、その他関係者29名の計70名が参加しました。

1日目

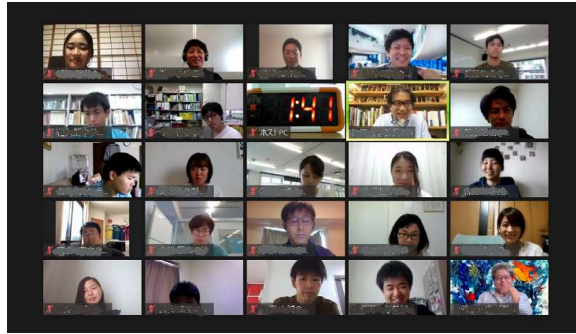
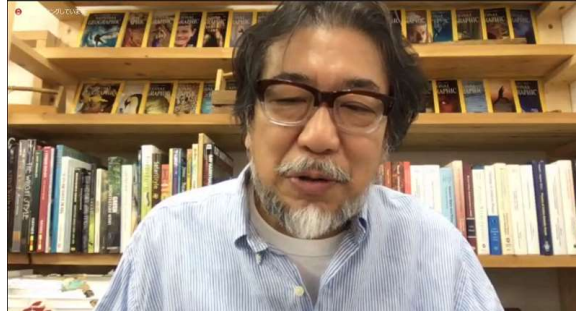
## 本日のプログラム (8/22)

### 8月例会 “希望創発研究会の学びを理解する”

- 9:00 開式の辞 櫻井学長  
ご挨拶 池田センター長
- 9:10 参画者&教員 自己紹介  
谷 俵太氏/関西大学 特任教授
- 10:50 理念醸成セミナー (Part I) - 希望創発センターとは?-  
谷 俵太氏/関西大学 特任教授
- 12:20 お昼休
- 13:30 理念醸成セミナー (Part II) - 希望創発センターとは?-  
谷 俵太氏/関西大学 特任教授
- 15:15 ガイダンス  
運営推進委員会
- 16:25 オンライン懇談会 (任意参加)

「インタビュー形式で参画社員と学生を紹介」

インタビュアー：関西大学 谷 俵太氏 (希望創発センター 客員教員)



理念醸成セミナー1 「希望創発センターとは? センター理念・基本方針について」

センター立ち上げに関わった教員を谷 俵太氏がインタビューし、センターが作られた目的や希望創発研究会がめざすことに迫っていただきました。

続いて、「創発」とは何かを考えるヒントとして、昆虫の世界を例に「生物社会の進化・多様性・創発」について、高知大学 農林海洋科学部の鈴木 紀之先生 (希望創発センター 兼務教員) にお話をいただきました。



理念醸成セミナー2 「グループワークで考える 希望とは? 創発とは?」

午前中にインプットした情報を踏まえて、各自の考えを発散する機会として、グループワークを行いました。

た。今回は敢えて企業人同士、学生同士のグループ編成です。

理念醸成セミナー (Part II) -希望創発センターとは？-			
【グループワーク：希望とは？創発とは？】			
<p>チーム1 (企業人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創発、希望を考える以前に、企業人は会議の目的を考えてしまうが、<u>フラットな議論に慣れるようにしたい</u>。時間軸で急ぎがち、前のめりにならない状態でこのセンターに挑みたい。</li> <li>・イノベーション01は難しい。ポテンシャルをいかに引き出すか。気づくには色んな人材がいると気付けるのではないか。</li> <li>・希望に関して、SDGs は本来の生物に開くという考え方。人間は生き方、やり方を変えられる。</li> </ul>	<p>チーム2 (企業人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望創発プログラムのイメージは、固いプログラムと考えていたが、課題から探すので楽しくやれそう。非常に練られているプログラムと依太さんのインタビューの技がすごい。</li> <li>・凝り固まった考え方を変えられるのではないか。</li> <li>・高知に行きかけた。</li> <li>・鈴木先生のプログラムから、<u>自然の中に答えがある</u>と思った。</li> <li>・イノベーションが目的になり、その集団を作るというやり方が間違っているのではないか。</li> </ul>	<p>チーム3 (企業人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望も創発も難しい。普段企業で務めると成功を求める、多数派、根拠を求められる、言葉の定義も意見を求められると意見が出にくい。</li> <li>・企業人の立場を忘れて、自由に言ってみる、気楽に言ってみることを行動の軸にしないと創発は起きなさそう。</li> <li>・日々考えることは狭くなりがち。今まで以上にアンテナを広げないといいけない。</li> <li>・創発が起こるためにも思ったことを気軽に話せる場に価値があるし活かしたい。</li> </ul>	<p>チーム4 (企業人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの話。「希望と創発」希望と創発</li> <li>・創発は1から作り出す！<u>わせるものなのか？</u></li> <li>・創発：想像する+発信！<u>視。どちらも能動的。</u></li> <li>・なぜ、希望？創発の2にあたり、軸に「希望」をがないものになる。</li> </ul>
<p>チーム5 (学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たち個人でどんな思いがあって入ってきたか聞いて行った。3人やれば<u>文殊の知恵</u>よりも超えられるようなものになるのでは。</li> <li>・友達としか話す場しかない、立場が異なる人々と交わり、<u>自分のもの</u>にしていきたい。</li> <li>・分けられたときに、どう話したらいいか苦労した。少しずつ打ち解けていった。</li> </ul>	<p>チーム6 (学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの希望創発に抱いている感情を出した。希望はイノベーションになり、起こすことが創発。創発するために、<u>否定しない、少数派を尊重する、違う意見を認めること</u>。</li> <li>・1+1が2にも3にもなることが、<u>希望創発につながる</u>のではないか。</li> <li>・堅苦しい話し合いになるかと思ったが、<u>フラットな話し合い</u>ができた。</li> </ul>	<p>チーム7 (学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望とは、創発とは何かを別々の意味を考えた。難しい。現在の未来なのか？</li> <li>・自由なもの、閉塞感がないものが希望。</li> <li>・創発は、すでにあるものを別の人が集まることで見える過程の事。グループワークで違う意見が出ることが創発。閉塞感がないなかを発信すること。</li> </ul>	<p>チーム8 (学生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の立場から研究会で<u>誰がが良いのか？</u>結ぶこと。義務教育のおかれる、正解しか言いたくないのかなと思った。仲良く話しているだけだったのだから。何をやってほしいのか集まりに参加した人もいたに見られている感覚を覚悟はないと去年参加した人が何をやってほしい。</li> </ul>

## ガイダンス1「希望創発センターの理念と実践と人づくり」

希望創発センター 池田 啓実 センター長と大島 俊一郎 副センター長にお話いただき、1日目のプログラムは終了しました。

## 2日目

本日のプログラム (8/23)	
8月例会 “希望創発研究会の学びを理解する”	
9:00	創発プレストバトル Part 1 谷 依太氏/関西大学 特任教授
12:00	お昼休
13:10	創発プレストバトル Part 2 谷 依太氏/関西大学 特任教授
14:50	基礎セミナー 藤 拓充先生/東北大学
16:30	閉式の辞 池田センター長
2020年8月22日(土)・23日(日)	

昨日に引き続き、講師 谷 依太氏による創発の体験ワークを2回行いました。

創発プレストバトル1「不利益な文具を考える」

創発プレストバトル2「アイデアバトル！新しいドライブスルーを考えてみる」



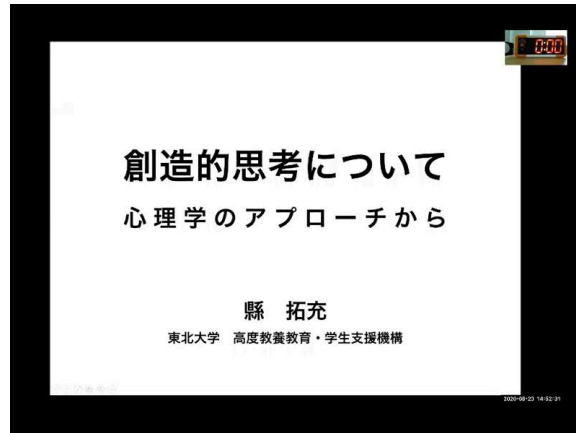
## ブレストバトルの手順

1. チーム分けとテーマ設定
2. 個人のアイデア出し (5分)
3. チームごとのアイデア出し (30分)
4. アイデアエントリー (10分)
5. プレゼンテーションバトル (1人1分)



基礎セミナー「創造的思考について」 講師 東北大学 縣 拓充氏

2回のワークで遊び心・想像力が引き出されてきた参加者に向けて、体験の理論づけを行っていただきました。



#### <参加者の声>

- ・セミナーでは創発についての様々な考え方(捉え方)があったが、希望創発ということはどういうことなのか考えていきたいと思った。
- ・「社会における漠然とした閉塞感」については自分自身が常日頃感じていることであり、そうしたなかで、「意味」と「意義」という切り口で現在の状況を切り取っているのは新鮮であり、納得感があった。
- ・生物学から見た創造の話は大変おもしろかった。虫たちは進化の過程であえて少数派を目指し、その結果多様性と創造が生まれたとすれば、多数派で安心する私たちから創造が生まれないのも納得できる。創造を生む場では、「正しい・間違えない」ことよりも「個性を持った考え」で取り組みたい。
- ・「不便益」ということに頭を巡らせたことがなかったので新鮮だった。現在の社会は、便利さを追いかけすぎている気がするため、不便益を考えることは「遊び」があって面白いと感じた。
- ・過去にアイデアが出やすい条件というものについて自分が見聞きしたことや感じた事が順序立てて言語かされていて、ワークの後に講義をいただいたことで個人的には共感することが多かった。
- ・2日間通してのオンラインで、進め方やコミュニケーションの取り方に難しさは感じたが、とても楽しく時間を過ごすことが出来た。非常に多様な人材が参画されていて、それぞれの方ともっと話をしてみたいと思うし、願わくば早くコロナが収束して直接のコミュニケーションが取れることを願っている。

# 希望創発センター

Center of Education and Research for Hope-Emergence

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1  
国立大学法人 高知大学 学務課  
学習・研究サポート係（希望創発センター）  
TEL:088-844-8440

© 2019 高知大学希望創発センター